



神奈川県立 公文書館だより

第51号

編集発行 神奈川県立公文書館

〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1

電話 045 (364) 4456

FAX 045 (364) 4459

<https://archives.pref.kanagawa.jp/>

休館日：月曜日、祝日（月曜日と重なる場合は翌日）、年末年始（12月28日から1月4日）

収蔵資料展示

期間 令和六年五月十日～六月三十日
一階展示室

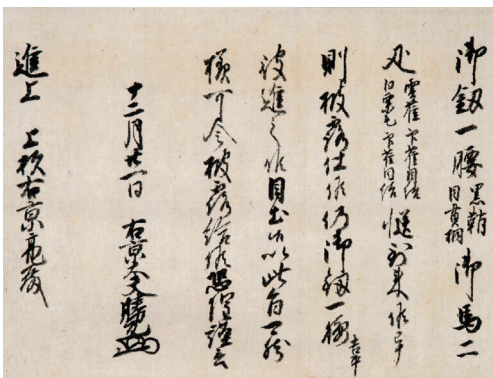
令和六年度最初の展示は、当館所

蔵の特色ある資料を紹介する収蔵資料展とし、併せて、令和五年度のアーカイブズ実習（※1）生が選定した資料を展示しました。

※1 アーカイブズ学関連の課程を履修する学生を対象とする公文書館業務全般に係る実習

■当館所蔵の中世文書

展示の口明けは、室町幕府の管領を務めた細川勝元の書状（資料ID 2200930201）と、現在の茅ヶ崎市香川が苗字の地である香川氏の西遷を物語り、家の由緒が伝承されていくさまを窺わせる先祖書「芸州八木城主香川氏先祖書」（資料ID 2200431578）を紹介しました。



細川勝元の書状
（資料ID 2200930201）

■大名が泊まった!?

江戸時代の宿場の記録

次に、江戸時代の東海道神奈川宿の本陣であった石井家伝来の資料（資料群ID 9136400024）から、文書、町絵図、間取り図を展示しました。近世になると、資料からも市井の人々の息づかいがより生き生きと感じられるようになります。

■修復の世界にようこそ

ついで、資料の「修復の日常」に焦点を当て、ふだん館内で行われている古文書修復の方法の一部を、写真（修復前）と原本（修復後）を比較できる形で紹介しました。題材の古文書は、とある喧嘩の発端から和解までの顛末を記録したもので、誰にも読みやすく、身近に感じられる内容のものであります。

■日記で読む・知る大震災のリアル

当館には、同時代人として関東大震災（大正十二（一九二三）年）を体験した人々の日記や手紙など、「エゴ・ドキュメント」と呼ばれる資料が残されています。主として震災当日の記事・記録という「時代の証言」を取り上げました。

■県立高校の記録

続いては、県立高校から当館に引き渡された昭和初期から三十年代までの文書を読み解き、終戦直後から

書き継がれた教務日誌や、一部、戦中の教職員の応召の記録が残る職員名簿、人事関係文書などを紹介し、あわせて「広報課撮影写真」に残る県立高校関係の画像もまじえて在りし日の学び舎の日々を描き出す試みをしました。

■もうすぐ七月

季節の話題として、本年七月、新たに一万円札の肖像となった渋沢栄一が本県に残した足跡を示す文書のほか、七夕に関わる県内の行事について、主に昭和三十～四十年代の「広報課撮影写真」や「県政写真ニュース」等の画像資料を中心に構成した展示を行いました。

■見えない相手、

ウイルスとの闘いの記録

最近の行政刊行物の中から、新型コロナウイルス感染症に対する本県行政の対応をまとめた「新型コロナウイルス感染症 神奈川県対応記録」の「保健医療編」「対策本部運営編」を、保存すべき令和史の語り部として紹介しました。

■アーカイブズ実習生の選定資料

最後に、昨年度のアークカイブズ実習生が実習中に関心を持ち、選定した資料から、江戸幕府の将軍から県内寺院に下付された朱印状の写しや、条例等の発効に必須の「公告式」に位置付けられた県公報の沿革とその電子化に関して職員が再構成したものを展示しました。

全体として、当館の収蔵資料の多様性を示す展示とすることができたものと思います。（資料課 中島淳）

東海道新幹線開業60年！

企画展示「新幹線・駅・街——かながわの記録たち——
夏休み親子講座「新幹線のものごと」

はじめに

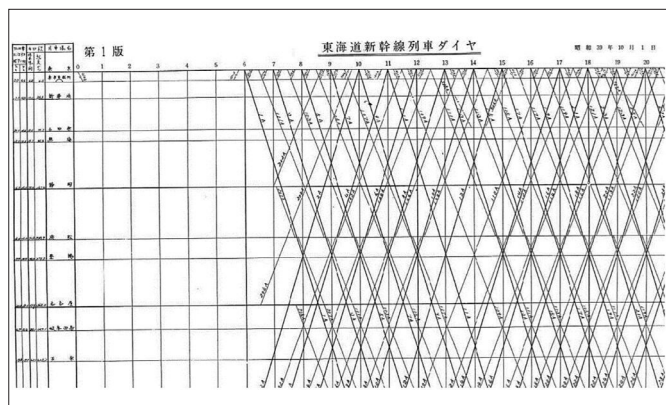
令和六年（二〇二四）は東海道新幹線が開業した昭和三九年（一九六四）から六〇年ということで、当館では東海道新幹線にちなんだ展示及び講座を企画しました。

ところで、皆さんは神奈川県と
東海道新幹線には少なからぬ縁
があることを御存じでしょうか。
東海道新幹線は県内を東西に横
断しているだけでなく、その開業
前には県内に試運転のためのモ
デル線区間が敷かれ、開業時には
新横浜駅と小田原駅の二つの停
車駅が置かれるなど、神奈川県と
東海道新幹線には深い関わりが
あります。

今回はこのような本県と縁浅からぬ東海道新幹線にスポットを当て、当館の収蔵資料を用いた催事を実施しました。以下、その概要を紹介します。



「幻の新幹線」日本電気鉄道線路図



開業当時の東海道新幹線運行ダイヤ

企画展示「新幹線・駅・街
—かながわの記録たち—」

東海道新幹線は昭和三〇年代に計画・施工されますが、実はそれ以前にも東京と大阪をつなぐ高速鉄道敷設計画がありました。当館所蔵歴史的公文書「大正一四―昭和七年度 鉄道軌道」(県各課100-6)に収録されている日本電気鉄道関係資料や同「昭和一八年 五月一八日提出 参事会議案原稿」(県会1943-10)に綴られた「弾丸列車」線路敷設地の用地買収に係る文書は、東海道新幹線の前史を知ることのできる資料として目を引きます。



開業約10年後の新横浜駅周辺

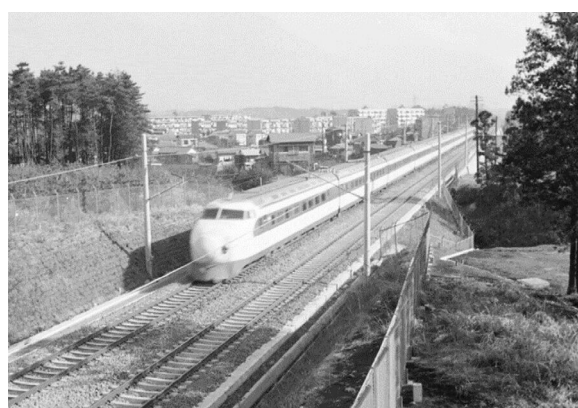
東海道新幹線の開業により大きく様変わりした地域として、県内では新横浜駅周辺がまず挙げられるでしょう。一面の水田であった新横浜駅周辺が新駅の開業により大きく変貌していく様子を、今回の展示では当館所蔵の行政刊行物や写真等により描出しました。蛭が飛び交い、牛が田を耕していたかつての新横浜駅周辺の情景は、当時を知らない観覧者の皆さんには驚きをもつて受け止められたものと思います。

以上のほか、県土整備局関連部署の協力も得つつ、現在工事が進められているリニア新幹線を含む新しい街づくりに関する近年の歴史的公文書や、「駅」という視点を通して歴史の諸相等を垣間見ることのできる様々な資料、武蔵国橘樹郡北綱島村飯田家文書に遺された未成線関係資料などを展示しました。新幹線や駅、鉄道といった皆さんの生活なじみ深いテーマだったこともあり、本展示をきっかけに当館に初めて御来館いただいた方も多くあったようです。

■夏休み親子講座

「新幹線のもがたり」

小学生とその保護者を対象として毎年夏休み期間中に開催している本講座は、平成二九年度の第一回以来、嬉しいことに年々申込者が増え、ここ数年は毎年定員を超えるお申込みをいただいています。参加希望者が増えるあまり、せっかく応募いただいても抽選の結果落選、という事態はできるだけ避けたい。本講座を楽しむにしている小学生の皆さんの顔を思い浮かべ、今年度はなるべく多くの方に参加していただけるよう、例年一日限りだった開



県内を走る東海道新幹線

催日を二日間に増やして実施する方法を採用しました。募集開始前は定員割れも懸念しましたが、蓋を開けてみると二日間とも満員御礼。結果として抽選になるほどの応募をいただきました。

講座は、「新幹線のもがたり」と題した講義形式のお話とバックヤードツアーの二部構成です。前半の「お話」は、上述の日本電気鉄道や「弾丸列車」に関する当館所蔵資料を用いて東海道新幹線の歴史をひもとくとともに、大きく変わった新横浜駅周辺の様子を古い地図や写真等から読み取り、これらを通じて公文書館の機能や役割について知るというものでした。

講義はクイズを交えつつ進行了しましたが、難しい問題が多かったようで、皆さん悩みながら回答を選んでいました。特に、現在の新横浜駅近くにあった、ある生き物の養殖場に関する問題は、答えのお披露目時には悲鳴(?)も入り混じるリアクションをもって受け止められました。

講義の後はバックヤードツアーです。文書保存箱が山積み荷解・選別室や重厚な書庫前室の扉、あるいは全面木造りの五号書庫など、参加者の皆さんにとっては初めて目にするものばかりだったようで、たくさんの方の新しい発見があったのではないのでしょうか。



バックヤードツアーの一場面

本講座は、「子ども講座」でなく「親子講座」を謳っており、日ごろ当館とあまり接点のない学齢期のお子さんやその保護者の皆さんに当館の機能と役割について知っていただき、利用につなげ

ることを目的としています。「子どもの付き添いのつもりで来ましたが、子ども以上に楽しんでしまいました」といった保護者の皆さんからの感想や、講座終了後にいただいた夏休みの自由研究についてのレファレンスなどは、担当者冥利に尽きる嬉しい成果でした。

■おわりに

以前に比べて向上しているとはいえ、公文書館はまだ知名度の低い施設です。近所の小学生に「謎の建物」などと噂されている当館ももちろん例外ではなく、公文書館やその収蔵資料をどのように利用してもらうか、引き続き展示や講座等の普及啓発事業等を通じて、地道に取り組んで参ります。

(資料課 関根豊)



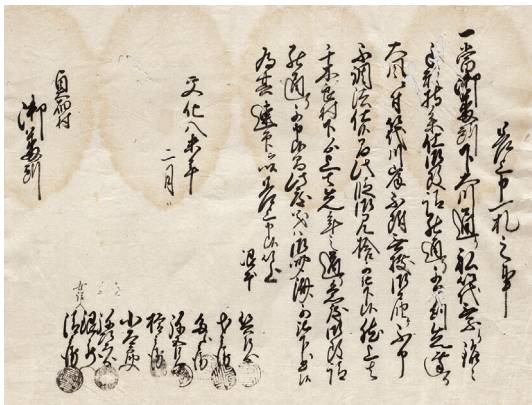
お土産の特製コースター

相模川奥畑番所関係資料

— 古文書講座入門編テキストから —

令和六(二〇二四)年度の古文書講座入門編は、五月一九日～六月二日および六月一六日～六月三〇日の日程で実施しました(両日程とも各日曜日、全三回、同内容)。一・二回目を筆者が担当し、三回目を国文学研究資料館の太田尚宏氏に御担当いただきました。

入門編は初心者向けに、比較的字のきれいな読みやすい資料を教材に使用しています。一回目に使用したのは、当館所蔵「相模国津久井県若柳村 鈴木家文書」から、若柳村(現相模原市緑区)沿い



資料 ID2199450614「差上申一札之事」

の相模川に置かれていた奥畑番所おくばたに関係する資料を取り上げました。奥畑番所は、相模川を通行する荷船や筏に乗る人の数を確認する「人改め」を役目としており、同村に置かれていた鼠坂関所ねんざかとともに、通行の管理を担っていました。

鈴木家は若柳村の名主を務めた家で、名主は奥畑番所の番も担っていました。そのため、鈴木家文書には奥畑番所に関する資料が残されています。

この資料は、文化八(一八一二)年、相模川を下っていた筏の乗員が、強風のため岸に着けることができず素通りしてしまったことについて、奥畑番所に対して提出した始末書です。本来なら人改めを受けたうえで通行が認められる番所を素通りしたわけですが、始末書の提出で済んでいます。それだけ奥畑番所の重要性は低かったということでしょう。

なお、二回目は五人組帳、三回目は御林(幕府所有の山林)の御林守に関する資料を取り上げました。(資料課 上田良知)

X(旧Twitter)の案内

神奈川県立公文書館では、ホームページによる広報だけでなく、X(旧Twitter)による広報も行っています。

展示の案内や講座の案内のほか、収蔵資料の紹介や公文書館の日常についても取り上げていますので是非ご覧ください。



https://x.com/kana_archives

展示の案内

企画展示

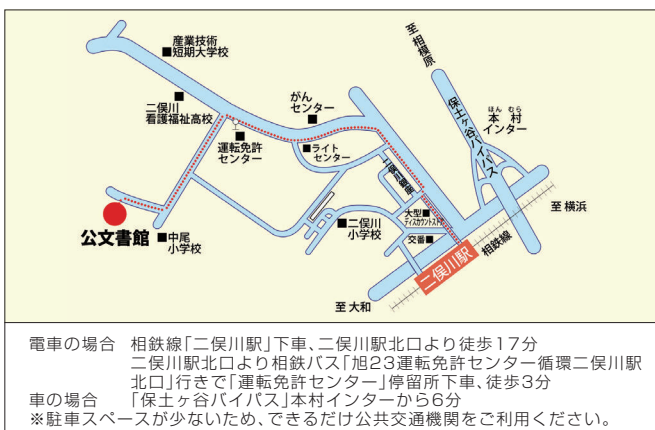
公文書館資料にみる

女子教育のあゆみ

1月24日から3月30日まで

※詳細は後日当館ホームページでお知らせします。

公文書館へのアクセス



電車の場合 相鉄線「二俣川駅」下車、二俣川駅北口より徒歩17分
二俣川駅北口より相鉄バス「旭23運転免許センター循環二俣川駅北口」行きで「運転免許センター」停留所下車、徒歩3分
車の場合 「保土ヶ谷バイパス」本村インターから6分
※駐車スペースが少ないため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。